

一般質問通告書

令和5年6月定例会

1 番 奥 良 秀 議員 (一問一答)

1 安全・安心なまちづくりとしての防災対策について

(1) 防災・減災の取組の現状と課題について

ア 南海トラフ地震などによる津波等への対策として、本市では緊急の防災情報を市民へ確実に伝達するために、既に設置されている緊急情報システムに加え、沿岸部に9か所、Jアラートと連動した屋外スピーカーを増設し、また、既存の機器も更新や高性能化を実施し「逃げ遅れゼロ」を目指している。防災情報システム関連事業は構築されてきているが、情報を聞き自主的に避難するのは市民である。今後、市民への周知を具体的にどのように行き、「逃げ遅れゼロ」の目標に取り組むのか。

イ 本市は中山間地域・低地・埋立地等様々な地形から構成されている。近年では「50年に一度」、「100年に一度」という降雨が起き、想定外な災害が日本各地で起きている。本市でも線状降水帯等に伴う急激な降雨により内水氾濫が発生している。安全・安心なまちづくりの取組に内水氾濫対策や流域治水対策は急務だと考えるが、現状と今後の対策をどのように考えているか。

(2) 避難所運営について

ア 本市には様々な地域に避難所が指定されている。災害時には数時間から数日間、衣食住を行う場所になる。現状、避難所設置の場所選定の考え方や避難所備蓄品はどうなっていて、今後どのように取り組んでいくのか。

イ 避難所の開設は市職員が行っている。各避難所の担当職員は、どのように選任され、どのような教育・指導・訓練を受けているか。また、地域住民や地域消防団や防災士とどのようにコミュニケーションを図っているか。

2 児童生徒に安全・安心な学校運営について

(1) 通学時に児童生徒は、国道・県道・市道など通学路に指定された歩道を通っている。近年、歩道や車道は傷み、排水口は詰まり、少しの雨でも大きな水たまりができています。横断歩道の白線はかすれ、分かりにくい場所もある。年次的に整備・補修等を実施されているが、なかなか進

んでいないと思われる。現状をどう捉え、どのような課題があると考えているか。

(2) プール施設については以前から危険箇所等について指摘している。そこで、現状はどのようになっているのか。

(3) 近年、気候変動により全国で熱中症が急激に増加している。本市では県内でもいち早く小・中学校の教室にエアコンを導入した。しかし、体育館にはエアコンが設置されていない。多面的な利用からしてもエアコンの設置は必要ではないか。

2番 岡山 明 議員 (一問一答)

1 学校給食におけるアレルギー対応について

(1) アレルギー食対応の児童・生徒は何人いるのか。

(2) 学校生活管理指導票（アレルギー疾患用）に基づく取組、活用状況はどうか。

(3) 学校給食で最優先されるべきは、「安全性」である。給食でのアレルギー対応について、基本的な考え方はあるか。

(4) アレルギー症状の発症時など緊急時対応の流れはどのようになっているか。

(5) 実践的な対応のためには、訓練が必要不可欠と思われるが、研修会等への参加はどうか。

2 読書活動の推進状況について

(1) 子どもたちに対して、どのように読書活動を勧めているか。

(2) 利用人数が多い大人に対して、どのように読書活動を勧めているか。

(3) 令和3年10月、電子図書館システムが稼働し、令和4年3月にはシステムが更新されたようだが、運用状況はどうか。

(4) 中央図書館と学校図書館の蔵書の一元化はどこまで進んでいるか。

(5) 電子図書館サービスの導入自治体数で全国トップを誇る山口県だが、今後の利用者への横展開、推進をどう進めるか。

3 市内の浴場について

(1) 公共・公衆浴場の利用状況はどうか。

(2) 中央福祉センターの浴室の利用・使用状況はどうか。

(3) 現在稼働している中央福祉センターの浴室の今後の見通しはどうか。

(4) 市内の天然温泉施設等の有効活用を図り、交流人口を増大させるため、入湯税の見直し等の考えはどうか。

3番 福田 勝 政 議員 (一問一答)

1 帯状ほうしんについて

私自身、帯状ほうしんの病気にかかり、痛みなどの後遺症に悩まされた。多くの方が苦しんでいる帯状ほうしんの詳細を聞く。

- (1) 帯状ほうしんの初期症状はどのようなもので、その原因は何か。
- (2) 帯状ほうしんの後遺症や合併症はどのようなものか。
- (3) 帯状ほうしんワクチン接種についての問合せは、年間にどのくらい件数があるか。
- (4) 帯状ほうしんワクチンの接種費用は幾らか。
- (5) 帯状ほうしんワクチン接種に係る助成制度の創設を検討すべきと思うが、どう考えているか。

2 公立保育園での紙おむつの処分の対応について

公立保育園では、使用済みのおむつを保護者が持ち帰っていると聞く。保護者の持ち帰りの現状について聞く。

- (1) 今年3月に、保育関連企業の社員で構成される「保育園からおむつの持ち帰りをなくす会」(大阪府)が、おむつの持ち帰りは不衛生だと強調し、においや重みに困る保護者や園児ごとに仕分けが必要な保育士の負担を指摘するなどの調査結果を公表したことにより、おむつの処分問題が全国的に注目されている。市内の保育園では、現在どのような流れで保護者に使用済みおむつを渡しているのか。
- (2) 保護者は使用済みのおむつのほかにも着替えなどの荷物があり、兄弟がいればその倍になる。保護者の負担を軽減するための対策をすべきと思うが、どう考えているか。

4番 吉永美子議員 (一問一答)

1 環境問題について

- (1) 第二次総合計画に掲げる循環型社会の形成を推進すべく、ごみ焼却量を減らす取組を市行政としてどのように行っているのか。
- (2) 第4次山陽小野田市率先実行計画(山陽小野田エコオフィスプラン)を策定し、地球温暖化対策を推進しているが、進捗状況をどう評価しているか。

2 空き家問題について

- (1) 増え続ける空き家について、国土交通省の有識者委員会が今後の対策のあり方をまとめたが、その提言をどう捉えているか。

3 若者会議について

- (1) 現状はどうか。
- (2) 今後の展開をどう考えているか。

4 子育て支援について

- (1) 本市はマタニティブックスタート事業を展開しているが、誕生後、言語発達状況や個性に合わせた「パーソナル知育絵本」の配布を考えられないか。
- (2) 文部科学省が3月末、不登校の総合対策「COCOLOプラン」を新たに策定したが、これにより、子どもの不登校に悩む保護者の支援がどのように強化されるのか。

5番 森山喜久議員（一問一答）

1 市職員の働き方・休み方について

労働力人口の減少が進み、男女ともに、仕事と育児・介護・治療などとの両立を抱える可能性が高まるなど、働く時間に制約のある人々が増えてきたことを背景として、2019年に施行された労働基準法や人事院規則で長時間労働への規制が定められ、働き方改革が本格的に進められている。この現状を踏まえ、公務員といえども一市民であるという観点から、必要であれば見直しを行うべきであるという立場に立って、市職員の労働環境の現状を聞く。

- (1) 民間企業では労働基準法を労働条件の最低基準としているが、公務員である市職員の労働条件は、どのようにして定められているか。また、定員管理計画や特定事業主行動計画などの各種計画との整合性はどのようにになっているか。
- (2) 市職員の労働時間の管理方法の現状は、どのように行っているか。また、時間外労働時間の現状と時間外労働時間の管理基準、時間外手当の支払について、どのように行っているか。
- (3) 市職員のサービス残業について、その実態を把握しているか。また、サービス残業が行われているのであれば、その原因とその対策についてどのように考えているか。
- (4) 年次有給休暇について、どのような目的で職員に付与されているか。年次有給休暇の現状と各部署の労働環境が適正であるか、検証をしっかりと行っているか。また、職員への意識啓発はどのように行っているか。

6番 白井健一郎議員（一問一答）

1 「障がい者福祉」について

- (1) 本市役所の障害福祉課の名称には「害」という漢字を当てているが、その点からも障がい者への差別解消を進めないのか。
- (2) 市は、市の公共施設のトイレをユニバーサルデザイン化するつもりは

ないか。

(3) 「障がい児」に対する職員の加配について、私立保育所の補助単価を平均給与額の常勤保育士を雇用できるまで引き上げて、最低賃金の上昇と「障がい児」数の増加に対応すべきではないか。

(4) 「障がい児保育」について、なぜ公立保育所と私立保育所では、圧倒的に後者のほうが予算（補助）が少ないのか。

(5) 視覚障がい者の同行支援者に、何らかの補助を考えられないか。

(6) 車椅子を使っている中学生が、本市内の高校に入学したいが、「合理的配慮」が伴っていないため、実質的に入学・登校できないと言う。法律で言う「合理的配慮」に従って、高校の環境整備を求められるのは、県だとは思いますが、市民のこのような悩みの解消に向けて、市長から県に要望を加えることはできないのか。

2 高齢者福祉のためのバス路線等の整備について

高齢者は、市内全線100円均一料金としてはどうか。

7番 宮本政志議員（分割質問・分割答弁）

1 まちづくり対策の拡充について

(1) 藤田市長は、「活力と笑顔あふれるまち～スマイルシティ山陽小野田～」を本市のキャッチフレーズとして掲げ、第二次山陽小野田市総合計画の基本構想並びに中期基本計画を策定している。将来都市像でもある「活力と笑顔あふれるまち～スマイルシティ山陽小野田～」を実現するには、市民が快適な生活を送ることができる「住みよいまちづくり」が基本となる。「住みよいまちづくり」のためには、様々な視点からの政策が必要だが、市民が快適で潤いのある暮らしをしていくには、都市基盤整備に関連する様々な施策を推進及び拡充していくことが重要である。特に市内の道路整備施策においては、渋滞による生活面での効率の低下、交通事故の危険性、これらによるストレスの増幅などの改善が図られることなど、早急に取り組むべき問題がある。そこで、現在の問題解決のため、市内にある、交差点など渋滞が慢性化している道路や交通事故の危険性が高い道路に対する効果のある具体的な方策を聞く。

ア 小野田駅前交差点から日の出二丁目交差点付近までの市道日の出町船越線の渋滞などの現状と今後の整備の見通しはどうか。

イ 厚狭北部地域の主要道路である市道成松山川線の道路拡幅整備に着手しているが、現状と今後の整備の見通しはどうか。

ウ 厚狭下村交差点から南部に向かって桜川沿いに通っている市道下村西下津線と市道成松山川線は、JR山陽本線高架橋下が狭くて低いた

- め、改善が必要と考える。道路拡幅整備など、今後の見通しはどうか。
- エ 厚狭駅近くのＪＲ山陽本線の下を通っている市道厚狭駅南３号線は、とても狭くて、歩行者がいると車は通行できないため、改善が必要と考える。今後の整備の見通しはどうか。
- (2) 藤田市長は、「協創によるまちづくり」の考え方の下、重点プロジェクトとして「地域を創る」、「ひとを創る」、「まちの価値を創る」という「三つの創る」を設定し、様々な施策に取り組んでいるが、これら「三つの創る」を進めていくには、市民が頻繁に集まる各地域交流センターの老朽化や災害時などの危険性は早急に改善されなければならない。
- ア 老朽化が進んでいる上、災害時に危険性の高い各地域交流センターの現状はどうか。また、問題解決のため、今後どのように施策を展開していくのか。
- イ 出合地域交流センターは、老朽化が進んでいる上、特に考慮すべきは土砂災害警戒区域に建物が存在していることである。隣接の旧出合保育園跡地の利活用も含め、今後どのように整備していくのか。
- (3) 「住みよいまちづくり」には、子どもたちが安心安全に教育を受け、学べる環境づくりの充実が必要である。そこで「山陽小野田市学校施設整備計画」に基づいた市内小中学校の校舎の建て替えや別棟新築などの学校施設整備について聞く。
- ア 具体的に、校舎の建て替えなどが必要な小中学校は、今後どのように整備していくのか。
- イ 児童・生徒数が多く、校舎建設から約５０年以上が経過している厚狭小学校・中学校の校舎の建て替えや別棟新築など、今後の整備の見通しはどうか。

8番 山田伸幸議員（一問一答）

1 マイナ保険証の実態と今後の運用について

- (1) 普及率はどの程度か
- (2) マイナ保険証のメリットは何か
- (3) マイナ保険証のデメリットは何か

2 市の魅力アップと人口増・定住促進について

- (1) 市の魅力アップのために竜王山のヒメボタルや焼野海岸、本山岬など今ある自然の資源をもっと生かしてはどうか。
- (2) 市の魅力アップは定住促進に役立つと考えられるか。
- (3) 定住促進の取組はどのように行われているのか

9番 伊場 勇 議員 (一問一答)

1 生成AIサービス「ChatGPT」について

「ChatGPT (Generative Pre-trained Transformer)」とは、米
国企業Open AI社が開発した、人工知能を使ったチャットサービスで
ある。入力した質問に対し、自然でクオリティの高い回答を対話形式で出
すことができ、それ以外にも、文章の作成、表計算等の関数の作成、プロ
グラミングの作成等もできる。国内においては横須賀市が2023年4月
20日に行政事務への活用実証を開始し、全職員を対象に広範な実業務で
利用を認めており、今後全国的に活用が急速に広まると考える。

- (1) ChatGPTは行政事務においてどのような用途に使用できるのか。
- (2) ChatGPTはどの程度の正確性や信頼性があるのか。
- (3) ChatGPTを使用するに上で制限事項やリスク等をどのように考
えているのか。
- (4) ChatGPTを学校現場で活用する考えはあるか。
- (5) ChatGPTを効果的に活用することで行政事務の効率化を図るこ
とができると考えるが、今後本市はどのように展開していくのか。

2 本市の農業振興と山口東京理科大学との関わりについて

市内の農地は年々無耕作地が増加し、地産の農作物の収穫量の減少に加
え、美しいふるさとの景観も失われている。それには様々な要因があるが、
この度は本市の特色の一つである市立山口東京理科大学と本市の農業との
関係と取組について聞く。

- (1) 現在、山口東京理科大学が本市の農業にどのように関わっているのか。
- (2) 現在、持続可能な農業を推進するために、スマート農業 (ロボット技
術やICT等の先端技術の活用による新たな農業) や減農薬、無農薬の
オーガニック農業に注目が集まっている。そこで、本市の専門性の高い
大学との連携や研究がこれからの地域農業の振興や活性化に生かされる
と考えるが、そのための施策を展開する考えはあるか。
- (3) 山口東京理科大学の大学生が本市の農業に関わることは、将来的にど
のような効果があると考えるか。
- (4) 本市の農業振興が進まない理由の一つに人手不足・担い手不足がある。
具体的な施策として、大学生が農業アルバイトとしてお手伝いしやすい
環境を市は支援できないか。

3 地方選挙の投票率について

18歳以上の市民は、投票によって自らの代表者を選び、政治的な意思
決定に参加する機会を得ることができる。しかし、まちの政治への関心の
低さ等の理由により、本市の投票率は年々低下傾向であり、過去最低の数

字を更新している。市民のまちづくりに対する意識を考える上で、投票率とまちづくりには密接した関係性があり、誰もが主役の「協創によるまちづくり」を推進している本市において、大きな問題と捉えるべきと考える。

- (1) 本市の投票率が上がらない理由をどのように分析しているか。
- (2) 投票率を向上させるための現在までの取組と成果は何か。
- (3) 投票率は、市民が地域の問題に関心を持ち、政治的な意思決定に参加し、まちづくりに積極的に関与していることを示す指標となると考える。「協創によるまちづくり」を推進する一つの指標として投票率を加えるべきではないか。

10番 矢田松夫 議員 (一問一答)

1 山陽小野田市の教育方針について

- (1) 学校における教職員・児童生徒の個人情報公開の現状について
 - ア 個人情報開示の指針はあるのか。
 - イ 個人を識別できる資料を配布していないか。
- (2) 平成24年4月に施設一体型連携校として開始した厚陽小中学校の現状と課題について
 - ア 10年を節目とし、成果(欠陥)を明らかにすべきではないか。
 - イ 一貫校としての誇りを児童・生徒は持てているか。
 - ウ 令和5年度小学校(一貫校)卒業後に、厚陽中学校に就学せず、市内・外中学校に就学先を変更した例があるか。
 - エ 就学先の変更手続は簡単にできるか。
 - オ 厚狭中学校との統廃合を検討されているか。
- 2 厚陽地域交流センターの建て替えに向けての建設計画について
 - (1) 建設に当たり、厚陽地区の街づくりを念頭に進めているか。
 - (2) 厚陽小中学校への施設複合化を検討されているか。

11番 中島好人 議員 (一問一答)

1 子育て支援について

- (1) 保育料の軽減について
 - ア 第2子以降の保育料無償化を実施してはどうか。
 - イ 第3子以上の保育料完全無償化を実現するために副食費を市が負担してはどうか。
- (2) 学校給食の無償化を実施してはどうか。
- (3) 国民健康保険料の軽減について
 - 子どもに係る国民健康保険料の均等割額を減額してはどうか。

- 2 高齢者福祉について
加齢性難聴者の補聴器購入に助成してはどうか。
- 3 地球温暖化対策について
プラスチックの分別回収に取り組んではどうか。

12番 恒松恵子議員（一問一答）

- 1 交通弱者対策として市内タクシーの利用促進及び支援について
 - (1) コロナ禍以降、市内のタクシー業者は経営基盤を守るため事業を縮小傾向にあるように思える。そのようなことから、日中はまだしも深夜、早朝の利用は極めて困難な状況にあり、多くの市民は困っている。人の移動手段の確保は市民生活から商業振興につながる市政の重要課題と思うが、このような現状をどう認識し、その対応策についてどのように考えているか。またどのような支援ができるのか。
 - (2) 運転免許証返納者の利用に対して、タクシー業界はタクシー利用料金の1割引の支援をしている。運転免許証返納者に限らず、運転免許証を持たない高齢者等は行動手段に極めて不自由さを感じている。これらを緩和するためにも、本市独自の支援制度を構築できないか。
 - (3) 妊産婦や子育て世代の市民が、タクシーを利用する場合の支援制度を導入できないか。
- 2 小野田線各駅の駐輪場と放置自転車について
 - (1) 小野田線各駅の整備状況と利用状況を市はどう把握しているか。
 - (2) 放置自転車は、現状はどうなっていて、撤去の基準と撤去後の処置はどうなっているか。
 - (3) 小野田線の利用促進につなげる駐輪場の活用施策を考えているか。
- 3 結婚等支援事業について
 - (1) 未婚化、晩婚化は社会課題の一つに挙げられる。本市の未婚率など婚姻の現状について聞く。
 - (2) 少子化対策として、結婚に対する意識向上を図るための婚活事業などの支援施策の取組を考えられないか。
- 4 介護施設における業務継続計画（BCP）について
 - (1) 2024年4月に介護施設における業務継続計画（BCP）の策定が義務化されるが、本市の取組の進捗状況はどうか。
 - (2) 市内の介護施設における業務継続計画の取組状況はどうか。